

一般車種共通組立説明書

WACHSEN®
hommage for velocipede

TRAILER

《必ずお読みください!》

本製品は100%完成車ではございませんのでお客様に調整等をお願いすることがございます。

お手数をおかけすることがございますがあらかじめご容赦くださいませ。(組み立て、ギア・ブレーキの調整等、その他)

また初めてのご乗車の前や日々のご乗車の前には、日常のお手入れ欄に記載されている点検項目を、必ずチェックしてくださいますようお願いいたします。

製品の改良のために仕様の一部を予告なく変更する場合がございます。あしからずご了承くださいませ。
また、お買い上げの車種によりましては、説明書と実物の部品の仕様、形状等が異なる場合がございます。

MEMO

《必ずお読みください!》

この説明書の項目を十分にご確認ください。
別紙取扱説明書には自転車点検リストが付いていますので
日頃の点検、整備を行ない、安全走行をお願いいたします。

- 変速機、ブレーキ等に関しましては、工場出荷時点で調整を行なっておりますが、輸送中の振動等により、お客様ご自身での調整が必要になる場合がございます。
あらかじめご了承ください。
- ハンドル、ペダル等は必ず乗車の前にしっかりと固定されているか確認してください。
- ブレーキの点検はご乗車前に必ず行なってください。

その他の事項につきましても必ず説明書をよくお読みください。

日常のお手入れ

自転車のご使用に際しては、日常のお手入れ調整が必要になります。
ご乗車前には下記注意事項を参考に、各部の点検を行なってください。

● 各部の点検

- ・ハンドルの固定
- ・ペダルの固定
- ・サドルの固定
- ・変速機の調整
- ・タイヤの空気
- ・折りたたみ部の確認
- ・ブレーキの効き具合

● 保管方法とお手入れ

- ・保管は水、雨のかからない場所で行なってください。
- ・場所の確保が困難な場合は、カバーを使用するなどしてなるべく水分を避けてください。
- ・自転車を濡れたまま放置いたしますと、サビ、劣化の原因となります。水分を拭き取るなどして保管してください。
- ・チェーンには定期的に注油を行なってください。
- ・なお、リムやペダルの固定部分等には潤滑油の類は注油しないでください。部品の脱落、事故の原因となります。



警告

日常の点検を怠りますと、思わぬ事故につながる可能性がございます。
乗車前点検や日々のメンテナンスは必ず十分に行なってください。

製品の改良のために仕様の一部を予告なく変更する場合がございます。あしからずご了承くださいませ。
また、お買い上げの車種によりましては、説明書と実物の部品の仕様、形状等が異なる場合がございます。

もくじ

注意、日常のお手入れ、警告	3 ページ
もくじ	4 ページ
各部名称	5 ページ

自転車の組立方法

折りたたみ自転車のフレーム組立方法	6 ページ
ハンドルの組立方法	
①差し込みタイプのハンドル取付方法	7 ページ
②折りたたみタイプのハンドル組立方法	8 ページ
③バー固定タイプのハンドル取付方法	9 ページ
前輪の取付方法	
装着位置・タイヤの向き	10 ページ
クイックレバーの装着方法	11 ページ
キャリバーブレーキ前輪の取付方法	12 ページ
Vブレーキ前輪の取付方法	13 ページ
サドルの取付方法	14 ページ
ペダルの取付方法	15 ページ

自転車の調整方法

ブレーキの調整方法	
①Vブレーキの調整方法	16 ページ
②キャリバーブレーキの調整方法	17 ページ
③キャリバー・ドラムブレーキの調整方法	18 ページ
④ディスクブレーキの調整方法	19 ページ
アヘッドステムタイプのハンドル調整方法	20 ページ
変速機の調整方法（6段変速の場合）	21～23 ページ
シフトレバーについて	24 ページ
補助ブレーキについて	24 ページ
ブルホーン・ドロップハンドルを装着している車種について	25 ページ
シングルスピードバイクの注意事項	26 ページ
デュアルコントロールレバーの変速方法	27 ページ
アフターサービス	28 ページ
カスタマーサポートセンター	28 ページ
MEMO	30～31 ページ

車種により必要な工程が異なります。
該当の工程の説明をよく読み、自転車を組み立ててください。

アフター販売

▼ カギ・ライトなどのアクセサリー関連のお買い求めはこちら ▼

お買い忘れはありませんか？

オフィシャルオンラインショップ

暮らし育てるアイデア

D.I.G-mania.

ディグマニア

► <http://www.dig-mania.jp>



上記品番及びその他アフターパーツは弊社カスタマーサポートセンター、
もしくはオフィシャルオンラインショップ「D.I.G-mania」にてご購入いただけます。

お電話・Eメールでのご注文は代金引換のみの発送とさせていただいております。

送料:900円(税別・手数料込)※北海道・沖縄及び離島、一部の地域の方は別途費用が発生する場合がございます。

詳しくは弊社カスタマーサポートセンターまでご相談ください。

上記の商品価格、送料、手数料はすべて税別表記となりますので、別途消費税がかかります。ご了承ください。

アフターサービス

●保証書

必ず販売店印及びお買い上げ日をご確認のうえ、お買い上げの販売店から受け取り、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。また、お客様にて改造または修理をされた商品に関してましては保証対象外となります。何卒ご了承ください。お客様にて修理された際の費用のご請求は一切お受けできません。

※通信販売などお買い上げの場合は、販売店の購入明細、日付の入った代金引換の領収書などが販売店印の代わりとなりますので、大切に保管してください。

●修理をお申し付けされるとき

[保証期間中]

商品と保証書をお買い上げ店にご持参、ご提示の上ご相談ください。保証書に記載されている保証修理規定に基づき、修理いたします。

[保証期間を経過しているとき]

お客様のご要望により有料で修理いたします。※往復送料はお客様負担となります。

●アフターサービスについてのご不明の場合

お買い上げの販売店または、弊社カスタマーサポートセンターにご相談ください。

補修用性能部品の生産終了後の保有期間は2年です。

カスタマーサポートセンター

WEB

弊社ウェブサイトにて製品情報及び製品サポート情報をご確認いただけます。

► <http://www.b-grow.com/support/>

► 阪和 カスタマーサポート

MAIL

受付時間外のお問い合わせはメールにて受け付けております。

► ss@b-grow.com

※ご返信は受付時間内での対応となります。予めご了承ください。

TEL

お電話でのお問い合わせはこちら

► 0570-080856

受付時間 10:00~17:00
(土日祝、弊社休業日を除く)

※時間帯により、電話が集中し、つながりにくい場合がございます。
※予めご了承ください。
※お電話番号をお確かめのうえ、おかげ間違いないよう
におかけください。
※電話番号受付時間などについては、変更になることがあります。

ご購入後のお問い合わせにつきましては、以下の項目をご確認のうえお問い合わせください。

- 品番 ■品名 ■お買い上げ日
- お買い上げ店名
- お問い合わせ内容

発売元

株式会社 阪和

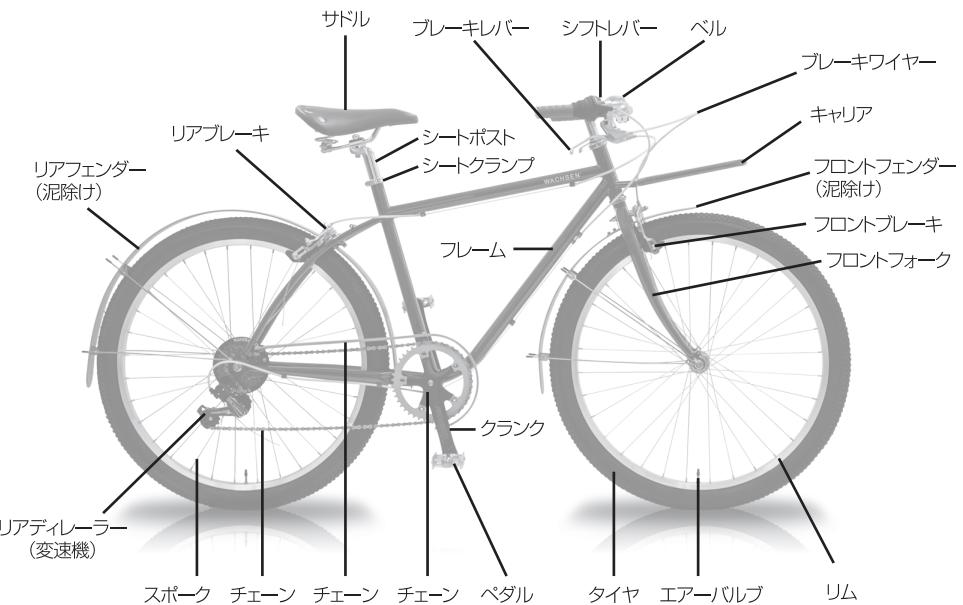
<カスタマーサポートセンター>

〒578-0901 大阪府東大阪市加納7-1-32

各部名称



ブレーキワイヤーの取り回しなど下記写真をご確認ください。誤った取り回しをすると、ブレーキや変速機に負荷がかかり、走行に影響が出たり転倒したりするおそれがあります。



上記の車種は一例です。

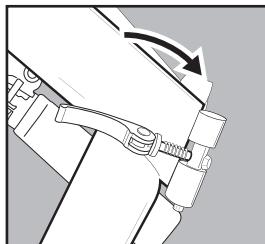
折りたたみ自転車のフレーム組立方法

※車種により形状は異なります。

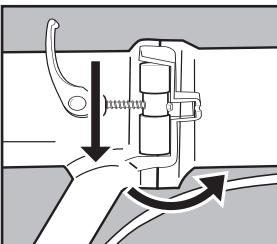
梱包を開封し、自転車を組み立てます。本体を組み立てる時は指詰めなどに注意して、本書の説明にしたがってください。

※レバーなどで固定する部分はしっかりときつくしてください。(事故や破損の原因となります。)

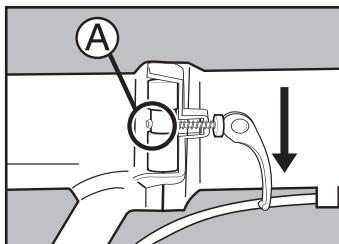
■ フレームの組み立て



①車体をまっすぐに伸ばします。

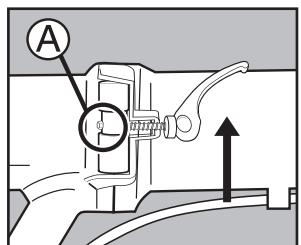


②レバーペダル部を垂直に上げ、クイックレバーを自転車前方へ水平に回転させます。

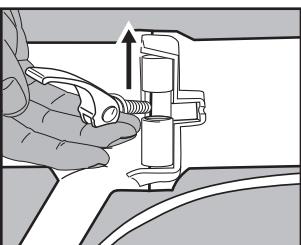


③レバーペダル部を垂直に下げ、折りたたみロックを固定します。
※クイックレバーは必ずきつくしてください。※きつてしまらない場合はAのネジをしめて調整してください。

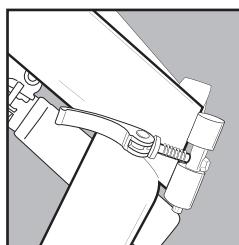
■ フレームの折りたたみ



①レバーペダル部を垂直に上げ、車体の固定を解除します。



②クイックレバーを自転車後方へ水平に回転させ中央付近でレバーを上へ持ち上げ、前フレームと後フレームのロックを解除します。

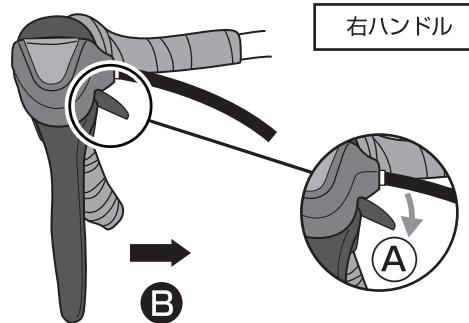


③車体を折り曲げクイックレバーを戻し、折りたたみ完了です。

デュアルコントロールレバーの変速方法

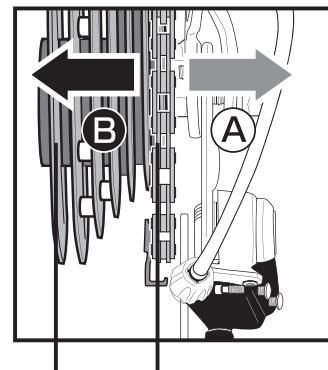
※車種により形状は異なります。付いていない車種もございます。

①リアディレーラーの変速方法



右ハンドル

●後輪ギア部を後から見たイラスト

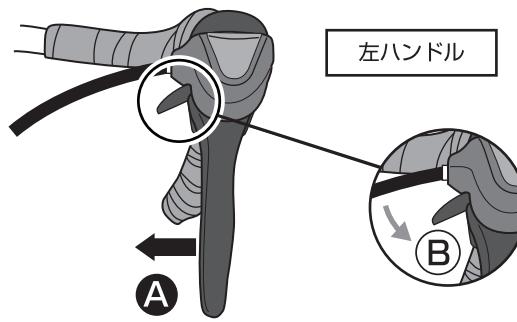


ローギア トップギア

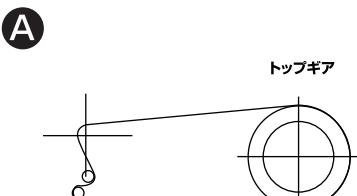
右ハンドルのブレーキレバー(B)を内側に押すとリアディレーラーがローギア(軽いギア)に切り替わります。

ハンドル上部のレバー(A)を押すとリアディレーラーがトップギア(重たいギア)に切り替わります。

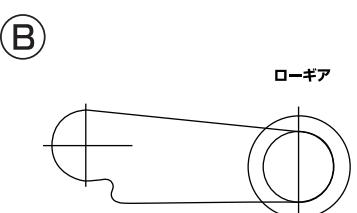
②フロントディレーラーの変速方法



左ハンドル



トップギア



ローギア

左ハンドルのブレーキレバー(A)を内側に押すとフロントディレーラーがトップギアに切り替わります。

ハンドル上部のレバー(B)を押すとフロントディレーラーがローギアに切り替わります。

シングルスピードバイクの注意事項

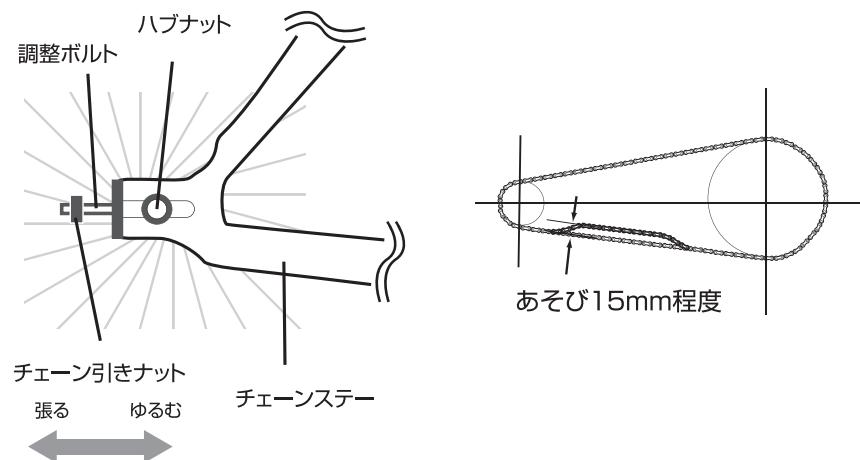
※車種により形状は異なります。

警告

調整ボルトは後爪より取り外さないで下さい。
後輪の固定がはずれ、転倒や怪我のおそれがあります。

調節の方法

- ①後輪ハブナットをゆるめます。
- ②チェーンステーと後輪の左右の間隔が均等になる位置でハブナットを仮止めします。
- ③チェーン引きナットを調整し、チェーンの遊びが10mm～15mmになるようにします。



- ④ハブナットをしっかりと締めこみます。左右のハブナットを交互に少しずつしめ付け、後輪を確実に固定します。

しめ付けトルク: 25～35Nm (250～350 kbm/cm)

- ⑤調整ボルトを増しはじめします。

調整ボルトがハブ軸に当たっている事を確認してください。
しめ付けトルク: 1～1.25Nm (10～25 kgm/cm)

注意

チェーンを張りすぎるとチェーンとチェーンリングとの音鳴りの原因になります。
チェーンが緩いとチェーンがチェーンリングから外れることがあり大変危険です。

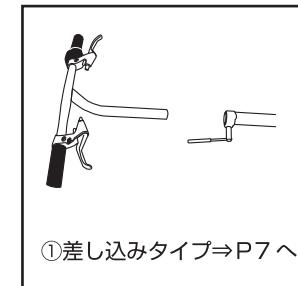
注意

ハブナットを片側だけ締め付けると車輪が車体の中心からずれ、チェーンの音鳴りやチェーンが外れるおそれがあり危険です。

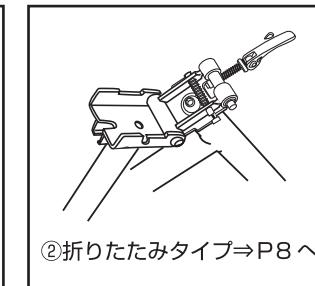
ハンドルの組立方法

※車種により形状は異なります。

取付の前にブレーキワイヤー等が絡んでいないことを確認してください。



①差し込みタイプ⇒P7へ

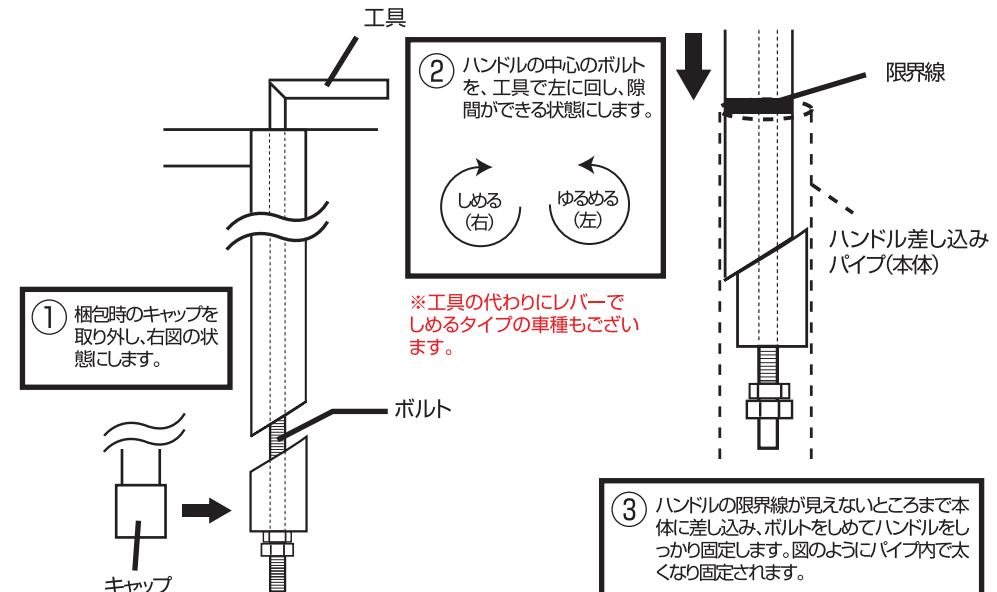


②折りたたみタイプ⇒P8へ



③バー固定タイプ⇒P9へ
(2.4穴共通)

①差し込みタイプのハンドル取付方法



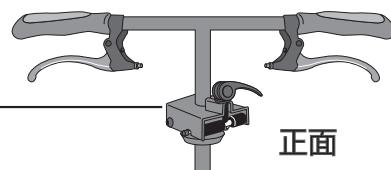
ハンドルバー、ハンドルシステムが確実に固定されていることをご確認のうえご乗車ください。
ハンドルシステムを下げて固定する場合、最も下げた状態で固定しないでください。

②折りたたみタイプの組立方法

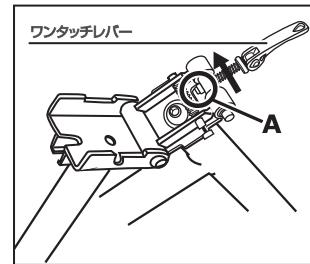
折りたたみタイプのハンドルは折りたたみ時に車体とハンドルが平行になるように設計されております。

このため、まっすぐに伸ばしたときに

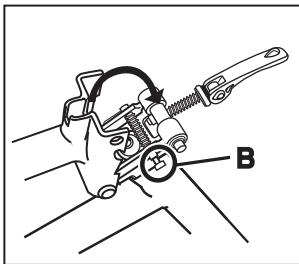
折りたたみ部の角度がハンドルに対して斜めになりますが
製品仕様ですので問題ございません。



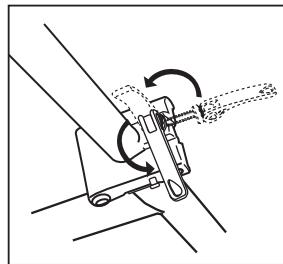
正面



①レバー・ペダル部を垂直に上げます。



②レバー・ペダル部を垂直に上げたままで、Bのピンを押さえながら折りたたまれているハンドルをまっすぐに伸ばします。



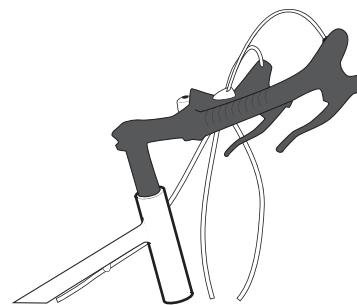
③ワンタッチレバーをハンドル方向に上げ、レバー・ペダルを垂直に下げ、固定します。

※Bのロックピンが無い車種もあります。

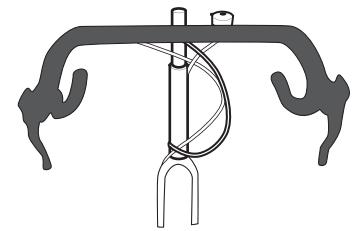
※ワンタッチレバーは必ずきつくしめてください。きつしまらない場合はAのネジをしめて調整してください。

ブルホーンハンドル・ドロップハンドルを装着している車種について

※車種により形状は異なります。



【ブルホーンハンドル】



【ドロップハンドル】

警告

必ずお読みください

ブルホーンハンドルやドロップハンドルの装着車種においてはハンドルと操縦管の取り付け部に大きな負荷がかかります。

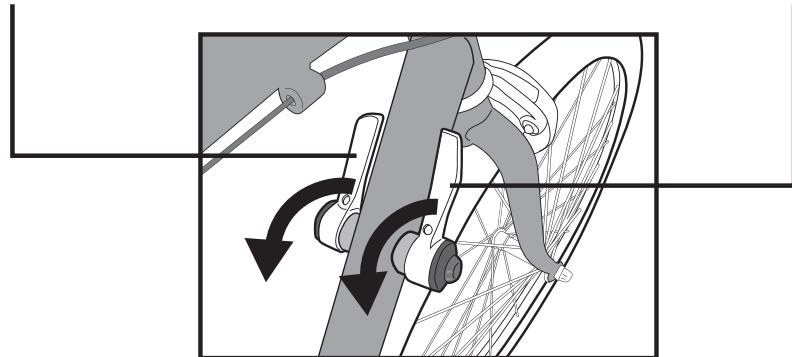
また比較的前傾姿勢のポジションとなり操縦管とハンドルの固定部に負荷がかかります。操縦管とハンドルの固定がゆるい場合にはハンドルが下方(地面側)に回転し思わぬ事故につながるおそれがあります。乗車前には必ずハンドルと操縦管が確実に固定されハンドルが上下に動かないことをご確認のうえ、ご使用ください。

シフトレバーについて

※車種により形状は異なります。付いていない車種もございます。

フロントディレーラー用シフトレバー

※手前に倒すと重たいギアにチェンジします



リアディレーラー用シフトレバー

※手前に倒すと軽いギアにチェンジします



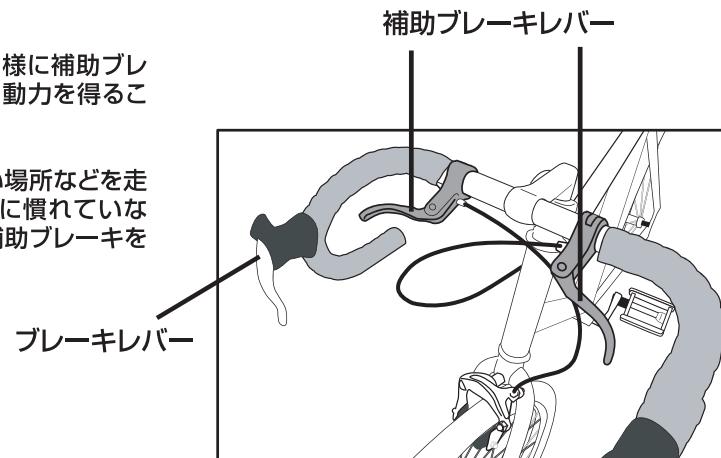
注意 シフトチェンジは必ずペダルを漕いでいる状態で行ってください。
止まった状態で行なうとチェーンが外れるなどして転倒したりケガや
事故の原因になります。

補助ブレーキについて

※車種により形状は異なります。付いていない車種もございます。

ブレーキレバーと一緒に補助ブレーキを握ることで制動力を得ることができます。

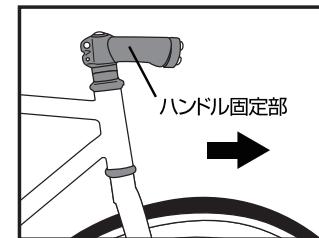
街中や障害物の多い場所などを走行する場合や、乗車に慣れていない場合は積極的に補助ブレーキをご使用ください。



③バー固定タイプの取付方法

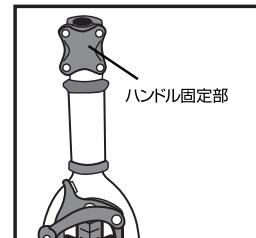
①

ハンドルの固定部を
図のように正面へ向
けてください。



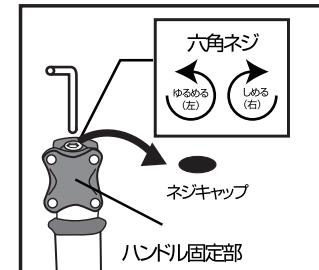
②

正面から見て、図の
ように前輪タイヤの
フレーキが前にくる
ようにしてください。



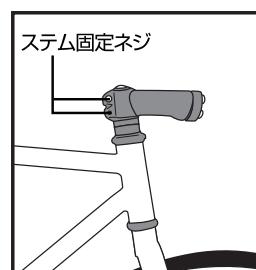
③

ハンドル固定部、上部
分の六角ネジのキャップ
を取り、付属の六
角レンチで固定してく
ださい。



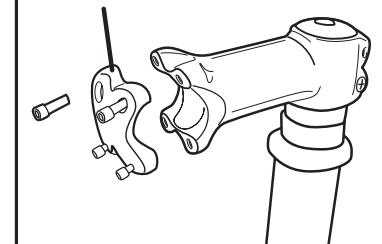
④

ステム固定ネジ(2か所)
をしっかりと締めてくだ
さい。



⑤

固定カバー



付属の六角レンチでハンドル固定部を図のよ
うに外してください。

⑥

ハンドル

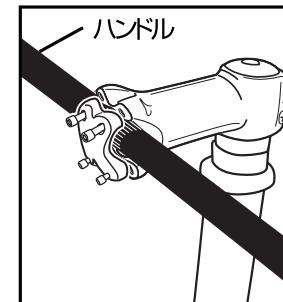


固定位置

ハンドル固定部にハンドルを取り付けます。ハンドル
についている滑り止めの位置でハンドルを固定してく
ださい。

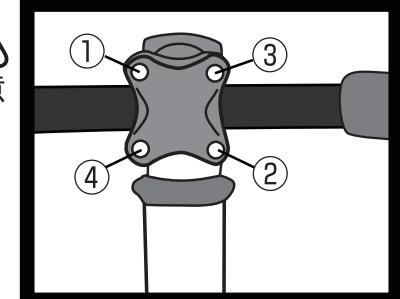
⑦

ハンドル



注意

ハンドルの位置、角度を調整しハンドル固定力
バーをはめ、しっかりと六角レンチで回して固定
してください。

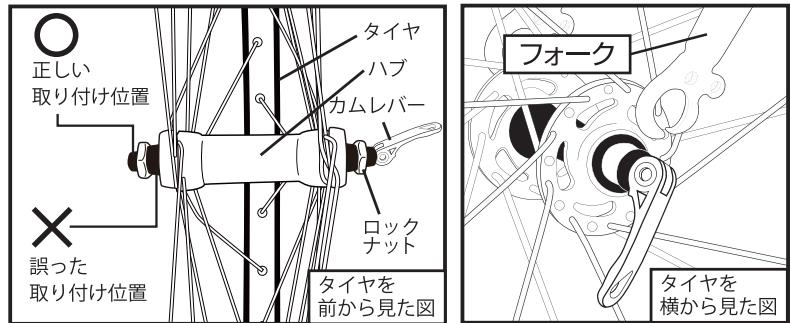


固定カバーをしめる際、図の順番に仮止めしていき、
最後にすべてのネジをしっかりと締めてください。

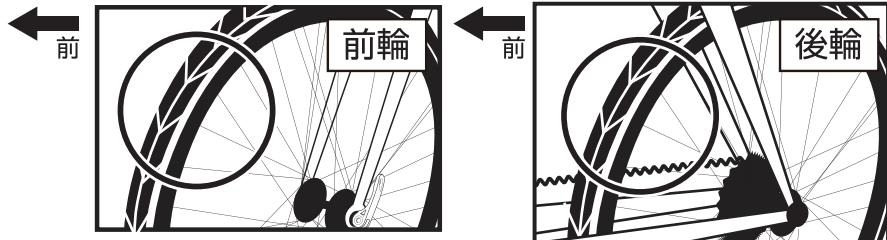
前輪の取付方法

※車種により形状は異なります。

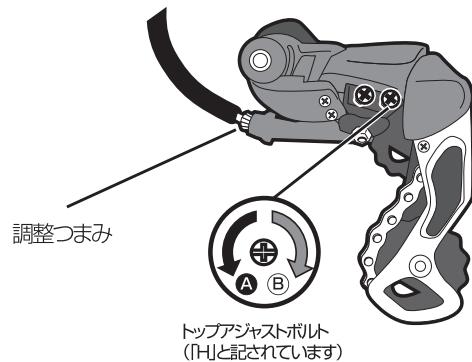
【装着位置】 フォークがロックナットの外側にくるように装着してください。



【タイヤの向き】 タイヤのパターンを後輪とそろえて装着してください。
(イラストは一例です。パターンは車種によって異なります。)



①トップ側の調整



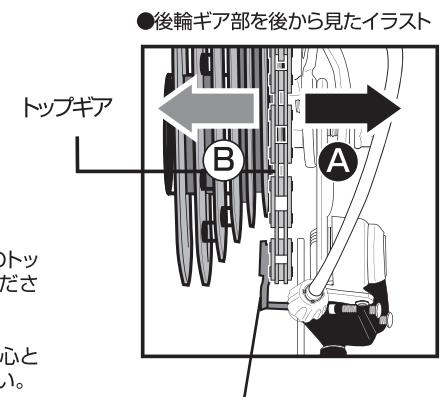
変速機を操作し、リアディレーラーが後車輪の一番外側のトップギア(重いギア)にくるようにしてから調整を始めてください。

Hのネジをプラスドライバーで回し、ガイドプレートの中心とトップギアの外側が一直線上に並ぶように調整してください。

※トップ側へチェーンがはずれるときは、トップ調整ボルトをしてください。

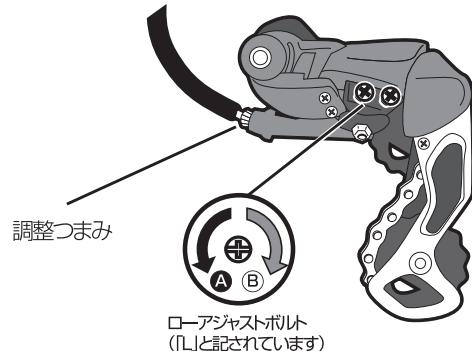


●後輪ギア部を後から見たイラスト



ガイドブリー

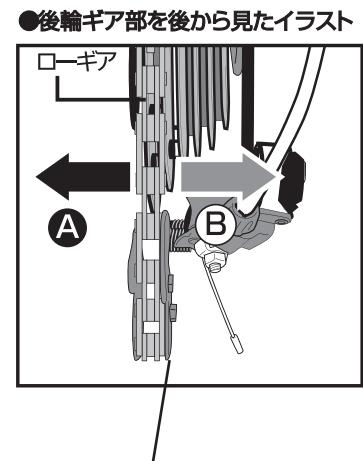
②ロー側の調整



変速機を操作し、リアディレーラーが後車輪の一番内側のローギア(軽いギア)にくるようにしてから調整を始めてください。

Lのネジをプラスドライバーで回し、ガイドプレートの中心とローギアの中心が一直線上に並ぶように調整してください。

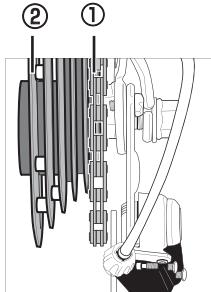
※ロー側へチェーンがはずれるときはロー調整ボルトをしてください。



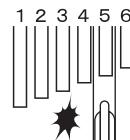
ガイドブリー

変速機の調整(リアディレーラー)※図は6段変速の場合

変速機の調整は工場出荷時に行なわれておりますが、お客様自身による調整が必要になる場合がございます。
なお、変速機の調整は保証・サポートの対象外となります。あらかじめご了承ください。



①一番外側の小さいギアを6段目
②一番内側の大きいギアを1段目
とします。※6段変速の場合



ベストセッティング

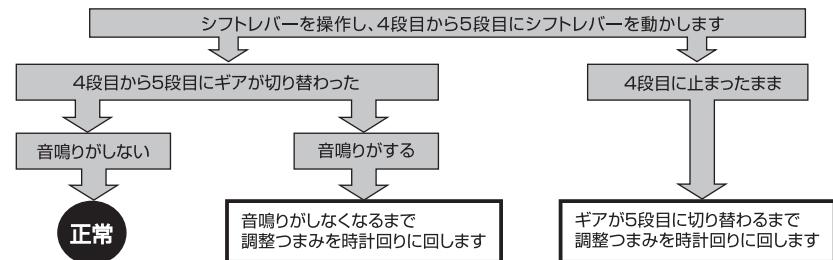
シフトレバーをレバーの遊び分だけ操作した状態で
チェーンが4番のギアに接触し、
音鳴りする状態がベストセッティングです。

レバーをもとの位置に戻し(レバーは5速の位置でレバーから指を離した
状態)、クランクを回転させてください。
4番目のギアと接触し、音鳴りが残っている場合は調整つまみを
少ししめて(時計回り)、音鳴りのしないぎりぎりのポイントで止めるように
してください。

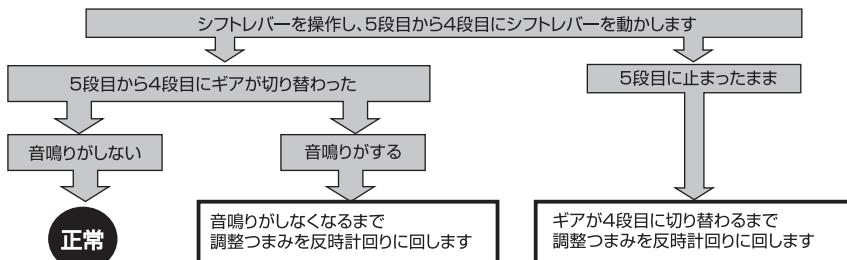


ディレーラーの調整は必ずクランクを回しながら行なってください。
クランクを回さない状態では絶対に調整しないでください。

【4段目から5段目にシフトアップする場合】



【5段目から4段目にシフトダウンする場合】

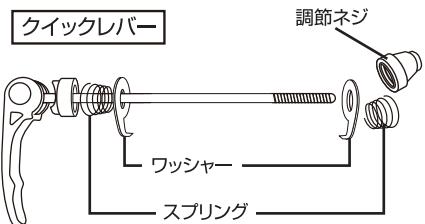


*この調整は各ギアごとに行なってください。

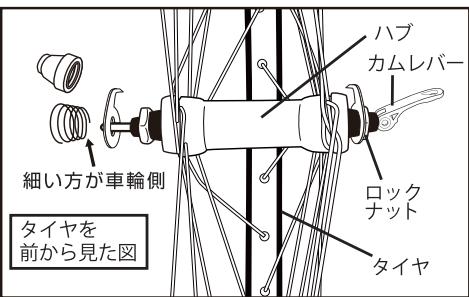
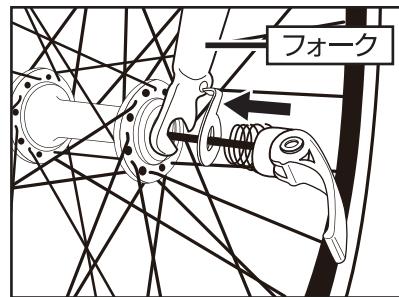
また、調整つまみで調整しきれない場合はディレーラーをトップギア側(外側)にし、調整つまみをしめ込み再度変速ワイヤーを張りなおしてください。外装変速機の調整は経験に左右されることが多いですから、何度か試してみるのが良いでしょう。

【クイックレバーの取付方法】

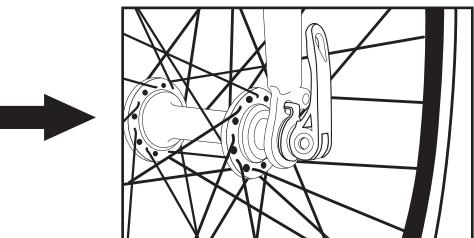
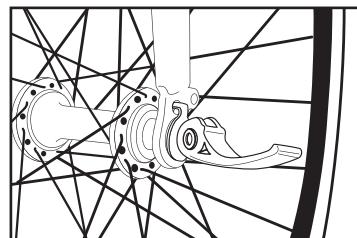
①付属のクイックレバーから片側の調節ねじ、ワッシャー、
スプリングを1つずつ外します。



②車体の左側から車輪の中心にクイックレバーを差し込んでください。カムレバーを押さえ付けて、反対側に突き出た先にスプリングを通してください。この時、スプリングの細い方が車輪側になるように取り付けてください。



③調節ねじを取り付け、手で緩く締まる程度締めてください。カムレバーをCLOSEの刻印が外側になるようにしめこみます。
レバーを閉じ込んだときに手のひらが多少痛くなる程度で、押し付ける力は200~250N(20~25kgf)になるように
調整ナットを調整してください。この時、締まらない場合や緩い場合は調節ねじで調節してください。



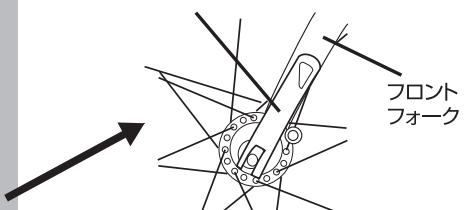
注意

レバーが固すぎたり、ゆるすぎて固定が十分でない場合は危険ですから再調整してください。

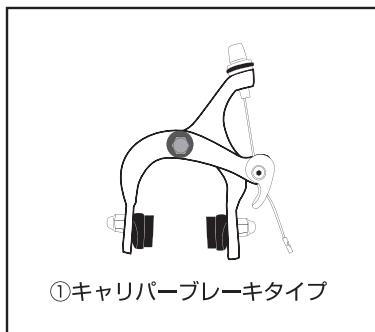
レバーは必ず前後輪とも乗車して左側になるようにしてください。

レバーは閉じこんだときにフロントホークに横から見てほぼ平行にそわせてください。

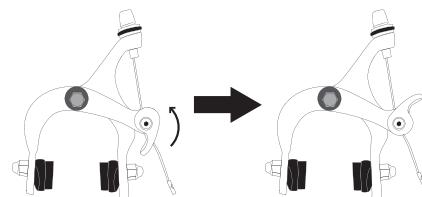
クイックリーズレバー



キャリパーブレーキの前輪の取付方法

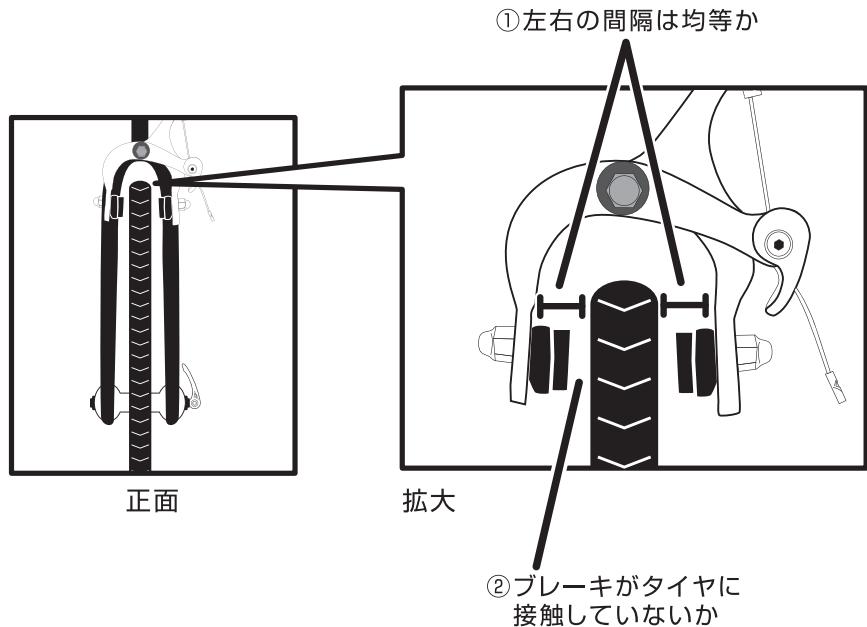


①カムレバーを起こしてブレーキワイヤーの
ロックを解除します。
※カムレバーが無い車種もあります



②タイヤ装着後、カムレバーを下ろして固定してください。
ブレーキレバーを引いたときに正常に作動するか確認してください。

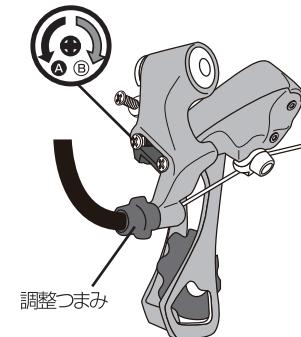
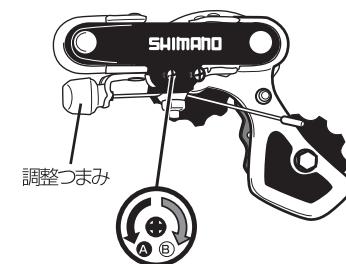
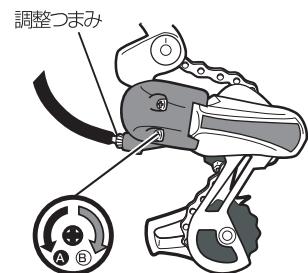
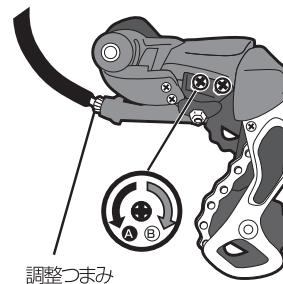
以下の2点を必ず確認してください。



変速機の調整方法

※車種により形状は異なります。

調節するための調整つまみの位置は車種により異なります。
下記のイラストを参考にしてください。



ハンドルの調整方法

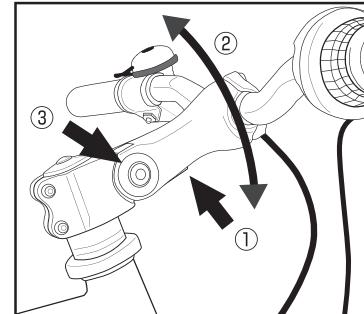
※車種により形状は異なります。

アヘッドステムタイプのハンドルの調整方法

①最初にシステム下部のアジャスターを六角レンチで緩めてください。

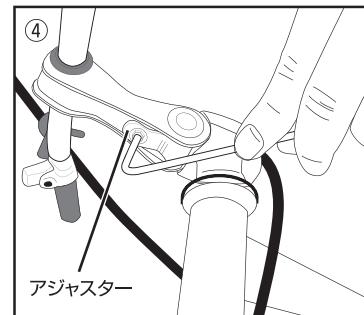
②ステムの角度をご調整ください。

③ハンドルバーの角度変化が少ない場合はステム左側のアジャスターを少し緩めると可動範囲が大きくなります。



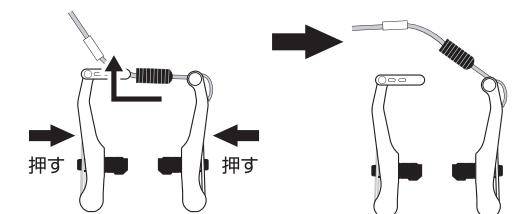
④調整後はハンドルバーが確実に固定されるようにアジャスターをしっかりとしめこんでください。

※走行中にハンドルがぐらつかないようにしっかりとアジャスターをしめこんで確実にハンドルを固定してください。



Vブレーキの前輪の取付方法

①Vブレーキのブレーキアーチを解除してください。

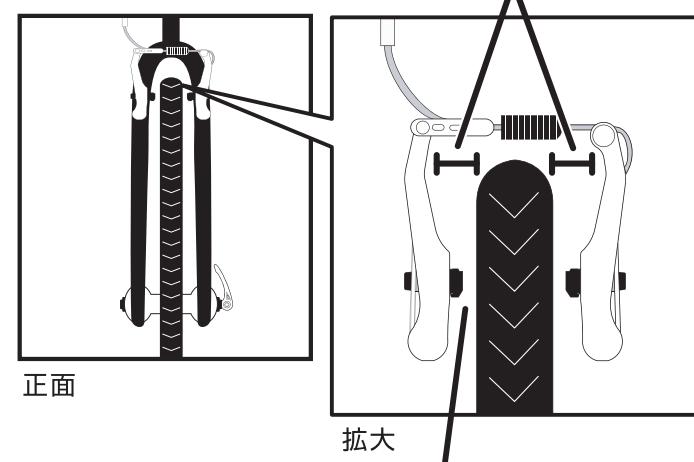


②Vブレーキタイプ

②タイヤ装着後、ブレーキアーチを戻して固定してください。
ブレーキレバーを引いたときに正常に作動するか確認してください。

以下の2点を必ず確認してください。

①左右の間隔は均等か



②ブレーキがタイヤに接触していないか

サドルの取付方法

※車種により形状は異なります。

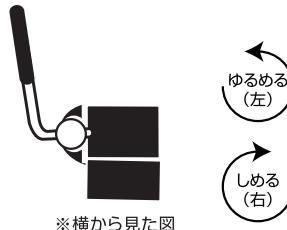
⚠ 注意

サドルは、しっかりと固定してください。固定されないまま乗車されますと、事故の原因となります。

乗車前には必ずゆるみがないかどうか点検を行なってください。



六角レンチタイプ

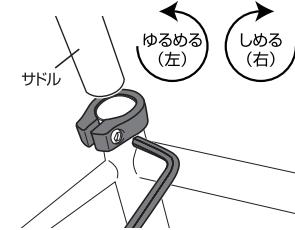


※横から見た図

クランクレバーを正面から見た状態で、右に回していくとサドルを固定できます。

固定する際はしっかりとレバーをきつくしめてください。サドルを抜く場合は左に回してネジをゆるめてください。

六角レンチタイプ



境界線が見えないところまで差し込み、六角レンチでしめて固定します。

固定する際はしっかりとレバーをきつくしめてください。サドルを抜く場合は左に回してネジをゆるめてください。

ワンタッチレバータイプ

※上から見た図



レバーを倒してもサドルが固定されない場合

ここを手、もしくはベンチなどで持て動かないようにします。
しめる(手前)

まず、レバーを起こした状態にします。
次にネジが動かないように手で持ち、レバーを手前(正面から見た場合時計回り)に回すとネジがまわりますので、レバーをしっかりと倒した時点でサドルが固定されるように調整してください。

レバーが固くて最後まで押し込めない場合

ここを手、もしくはベンチなどで持て動かないようにします。
ゆるめる(奥)

まず、レバーを起こした状態にします。
次にネジが動かないように手で持ち、レバーを奥(正面から見た場合反時計回り)に回すとネジがゆるみますので、レバーをしっかりと倒した時点でサドルが固定されるように調整してください。

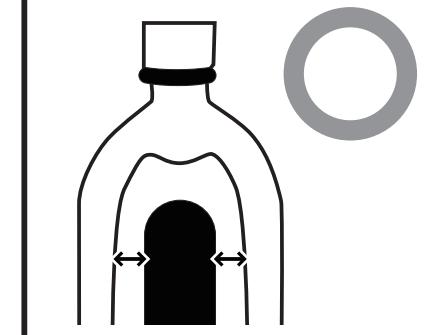
③ディスクブレーキブレーキの調整方法

出荷前に調整を行なっておりますが、輸送時の振動や前輪を取り付けられた際に車輪の角度が変わり、ブレーキを再調整する必要がございます。
ブレーキパッドにディスクローターが当たる場合は下記方法で調整を行なってください。

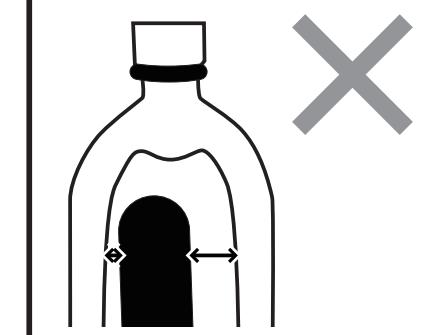
① 前輪の確認

前輪を正面から見て、フロントホークとの隙間が左右均等になっているか確認してください。
均等になっていない場合は一度クイックレバーをゆるめて角度を調整しながら固定しなおしてください。

左右の間隔が均等

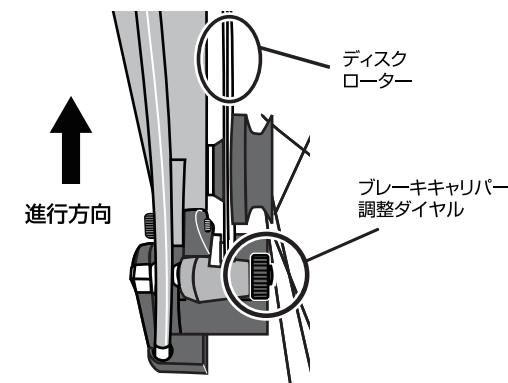


左右の感覚が不均等



② 調整方法

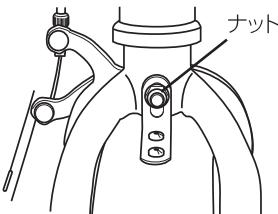
必ず①で前輪がまっすぐに正しく取り付けられているか確認してください。



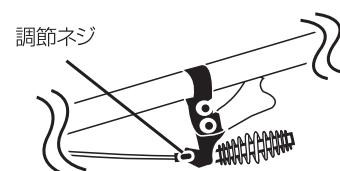
●ブレーキキャリパー調整ダイヤルを回します。
進行方向側に回すとブレーキキャリパーが左へ動き、手前に回すとブレーキキャリパーが左に動きます。
少しづつ回していく前輪を回転させてディスクローターがブレーキパッドに当たらない位置に調整してください。

②キャリパーブレーキ・バンドブレーキの調整方法

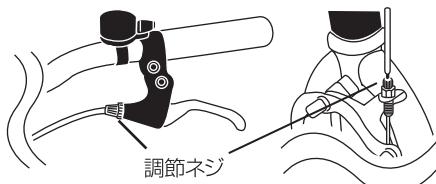
各調整ネジは下記の3カ所についています。ブレーキを握り込んでもブレーキが効きにくい場合や、ブレーキが固い場合などに調整してください。



①「前輪部のブレーキ本体付近」



②「後輪部のブレーキ前方のスプリング付近」



③「ハンドル部のブレーキレバー付近」

※調整ネジのしめすぎは
ブレーキワイヤー破損の
原因となりますので注意してください。

ブレーキが片方だけ動く場合の対処方法

フロントブレーキはリムを挟み込む形でタイヤを制御します。
その性質上ブレーキの本体が左右のどちらかに偏ってしまう場合があります。
この状態になったときは速やかに次の手順で調整してください。

1. ブレーキ本体の裏のナットをゆるめます。
2. ナットをゆるめるとブレーキ本体が左右に動くようになります。
ブレーキパットとリムの間が左右同じ間隔になるように、
先ほどゆるめたナットをしめつけます。

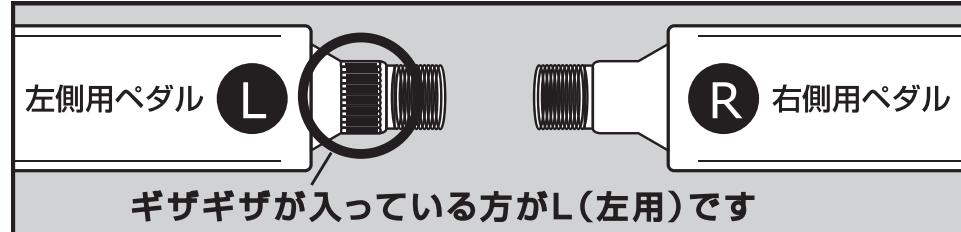
ペダルの取付方法

※車種により形状は異なります。

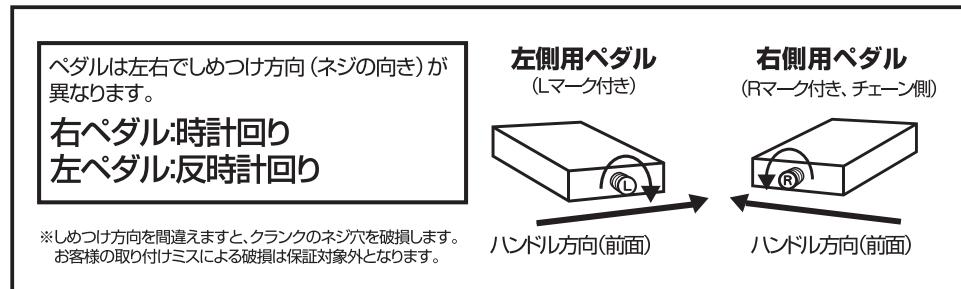
①最初に手でペダルのネジをクランク(ペダルを取り付ける部分)のネジ穴に
2~3回転程度ねじ込みます。

②まっすぐねじ込まれているのを確認してから、必ず工具を使用してしっかりと固定して
ください。固定が弱いと、破損、事故の原因となります。

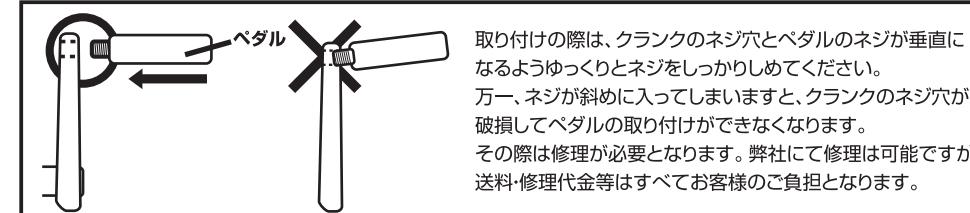
●ペダルには右用、左用があります。左右を間違えると取り付けできません。



●しめつけ方向にご注意ください。

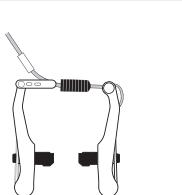


●取り付けはクランクに対して垂直に行ってください。

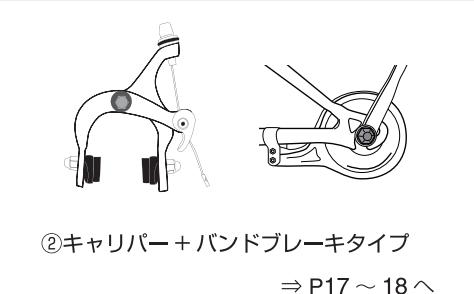


ブレーキの調整方法

※車種により形状は異なります。



①V ブレーキタイプ
⇒ P16 へ



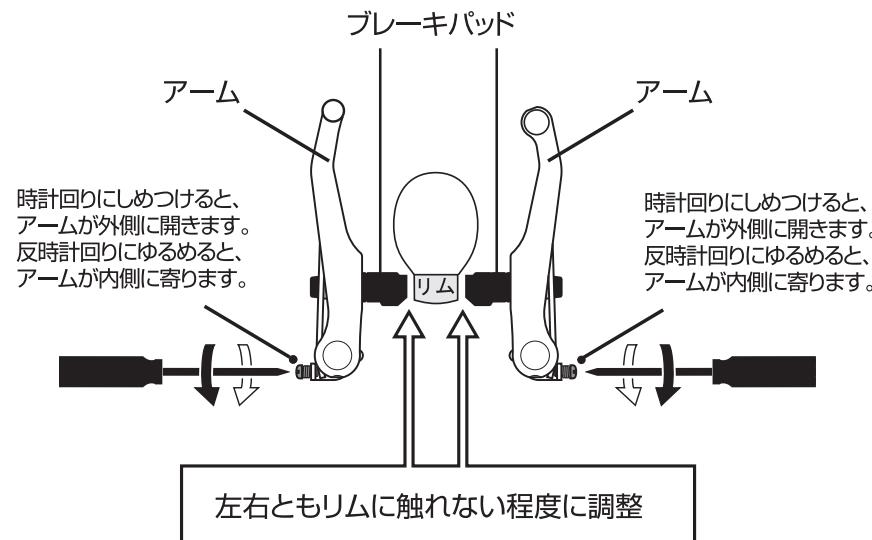
②キャリパー+バンドブレーキタイプ
⇒ P17 ~ 18 へ



③ディスク
ブレーキタイプ
⇒ P19 へ

① V ブレーキの調整方法

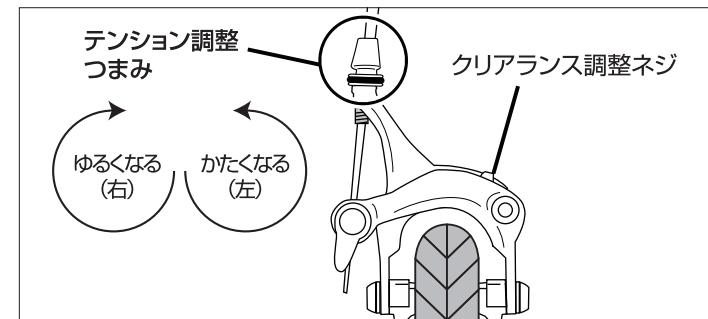
正面から見た場合



1. ブレーキパッドとリムの間隔が広い方のネジをゆるめブレーキを数回握る。
2. 間隔が狭い方のネジをしめ、ブレーキを数回握る。
3. この動作を繰り返し両方のパッドが当たらなくなるまで調整する。

調整時にネジの頭をつぶしてしまわないように、十分にご注意ください。
ご自身での調整が困難な場合はお手数ではございますが弊社サポートセンターにご連絡ください。

②キャリパーブレーキ調整方法



調整ねじで調整します。

調整ねじは

「ブレーキ本体付近」に付いています。

ブレーキを握り込んでもブレーキが効きにくい場合や、
ブレーキが固い場合などに調整してください。

- ブレーキパッドと車輪の間隔が広い場合はテンション調整つまみを反時計回りに回して、
ブレーキパッドと車輪の間隔を調整してください。(目安は3~4mmです)
- 片側のブレーキパッドしか車輪に当たっていない場合はクリアランス調整ねじを回して、
左右のブレーキパッドの位置を調整してください。
(時計回りに回すとブレーキパッドは右へ、反時計回りに回すと左に移動します)

ブレーキを握り込んでもブレーキが効きにくい場合

調整ねじ左に回し、ブレーキを固くしてください。
ブレーキレバーを握りながら固さを調整してください。

ブレーキが固い場合

調整ねじ右に回し、ブレーキをゆるめてください。
ブレーキレバーを握りながら固さを調整してください。

※調整ねじのしめすぎは
ブレーキワイヤーの破損の
原因となりますので注意し
てください。